

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全国学力・学習状況調査および市学習状況調査において、学力向上に一定の成果が見られた。来年度も、テスト前の勉強会やテスト後のスタドリタイムを継続し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒一人ひとりの実態に応じた学習が行えるよう取り組んでいく。
思考・判断・表現	次年度以降も、デジタルの力で多様な学びを支えるための協働的な作業や発表の場面を多く設定し、生徒が主体的に表現できるよう、ICT機器の活用を積極的に進めながら授業改善を図っていく。各教科だけでなく、道徳や総合的な学習の時間、特別活動においても、ICT機器を活用した情報共有や発表の機会を取り入れていく。また、教員に対してもICT機器の活用方法に関する校内研修を定期的に実施し、効率的で質の高い授業づくりを目指していく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の定着について課題がみられる。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能について、反復練習や家庭学習する時間等、振り返りをする時間を十分に確保できていない。	⇒ ・「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む【定期テスト前1週間の朝に実施】 ・各教科の勉強会の開催し、基礎的・基本的な定着を図る。【定期テスト前1週間の放課後・夏季休業中】 ・PCを毎日持ち帰ることで、家庭学習においても「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を取り組めるようにする。【毎日】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分の考えを表現について課題がみられる。 <指導上の課題> 生徒が自ら考え、発表する場面の設定が十分にできていない。	⇒ ・単元構成を見直し、各教科の授業において、生徒が発表する場面や少人数活動を増やし協働的な学びをより多く設定する。また、積極的にICT機器を活用することで、生徒自身が主体的に発表を行えるように環境を整える。【単元のためめの時間等】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	モジュール(朝数学)を年間25回実施し、基礎的な計算練習などに取り組んだ。また、定期テスト期間中や夏季休業中には、全学年を対象に5教科の勉強会を実施した。定期テスト前の朝の勉強タイムを通して、自ら課題を設定し学習に取り組む習慣が徐々に身に付き、自校テストの結果にも向上が見られた。さらに、3学期からは定期テストの振り返りを「スタドリタイム」として位置付け、ICT機器を活用しながら自ら課題を設定し復習に取り組んだ。一方で、家庭学習の時間については、生徒によって差が見られる状況である。	
思考・判断・表現	A	校内研修を定期的に実施し、オウリンクプラスやPowerPointなどを活用した協働的な学びを促進することができた。ICT機器の活用により、自分の考えを表現することが苦手と感じる生徒も主体的に発表に参加する姿が見られた。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に關する事項」において、昨年度比で1.5ポイントの改善が見られた。しかし、文脈に沿って漢字を正しく使う力は依然として課題がある。多くの生徒が、文章を読み理解した内容や自分の考えを報告・記述する際に、漢字の使用が不正確である。この背景には、授業において「考えを文章にまとめる活動」や「適切な漢字を用いた記述練習」の不足が考えられる。 数学の知識・技能分野で昨年度比11.5ポイントの大幅な改善が見られた。一方、「データの活用」では「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する」項目の正答率が低く、課題が残る。特に、文章を読み取り、自らの言葉で回答する記述式問題で正答率が低い傾向が見られる。今後は、授業で記述式問題に重点的に取り組み、「文章で説明する力」を育成する必要がある。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」の領域において、「自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠を明確にして書くことができるか」を問う項目で課題が見られた。文章を読み取り、感じたことや想像したことを書く活動が日常的に不足していると考えられる。 数学の思考・判断・表現の分野では、昨年度比で6.0ポイントの改善が見られた。しかし、「図形」に関しては、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明できるか」を問う問題の正答率に課題が残る。今後は、複数の情報を基に総合的・発展的に考える力や、粘り強く思考し、証明の妥当性を評価・改善できる力を育成していく必要がある。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	同一集団での経年比較の結果、数学・社会・理科における知識・技能の向上が確認された。いずれの教科においても、系統的でつながりのある内容について、既習事項の確認や繰り返し学習を行うことで、さらなる定着を図っていく必要がある。また、知識の概念的な理解を重視し、生徒が知識・技能を確実に獲得できるよう、授業改善に継続して取り組んでいく。
思考・判断・表現	同一集団での経年比較の結果、数学・社会・理科における思考・判断・表現の力の向上が確認された。これは、各教科の授業において実験の結果や学習成果をまとめたり発表したりする機会を増やしてきたことの結果であると考えられる。今後も、自分の考えを言葉で的確に伝える活動を重視していく。さらに、複数の情報の中から必要な情報を取捨選択する活動や、異なる考えをもつ他者と協議しながら解決策を見出す活動に積極的に取り組み、思考・判断・表現の力を一層高めていきたい。

③	評価(※)	中間期報告	中間期見直し
		学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	1学期未現在、モジュール(朝数学)を全8回実施し、基礎的な計算等に継続して取り組んだ。また、2回の定期テスト期間中には、朝のスタサプタイムや勉強タイムを活用し、学習習慣の定着を図った。さらに、夏季休業中には全学年で計3ら時間の授業や補習、作文指導、実験技能向上、宿題サポート等を実施し、基礎学力の向上に努めた。	変更なし
思考・判断・表現	A	少人数での話し合いが活動を通して、生徒の考えを深めることにも、協働的な授業実践を積極的に取り入れていく。また、教科等の特質に応じた自己表現の過程を開発することを目的に、ICTサポーターを講師として招き、校内研修を1学期と夏季休業中にそれぞれ1回ずつ実施した。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)